
閉会挨拶

【一ノ瀬】 第四回目となる「東アジアの死生学へ」というシンポジウムを、この高雄の地において開催し、このように充実した会になったことに、たいへん感謝しております。

歴史的にも、文化的な交流という面でも、日本と台湾はとても深い関係にあると、私自身、常々感じておりました。そのことは、さきほどの私の提題中にも言及しましたように、東日本大震災の被害に対して、世界中でも突出して手厚い支援が台湾から送られたということにもあらわれていると思います。死生学をテーマに、このように集まって論じたことには大きな意義があり、そして日本と台湾は、近いにもかかわらず、やはり違う文化があることもよくわかりました。私たちの死生学のプロジェクトは来年の三月で終わってしまいますが、このように実りある会を最後の年に開催できたことを本当に光栄に思います。今後も台湾と日本の人文系の交流をさらに密にしていきたいという切なる願いを表明するとともに、中山大学の先生方および本日参加されたみなさんに、深く御礼申しあげます。

以上、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【林慶勳】 それでは、中山大学の鄭力軒先生からご挨拶いただきたいと思います。

【鄭】 遠路はるばるお越しくださった日本の方々、台湾各地からいらつしゃってくださいましたみなさま、学内から参加された林先生、楊先生、廖先生、本日はこのようなすばらしい会を盛りあげてくださいましたこと、心より感謝いたします。それから、この会場で一生懸命頑張って仕事をしてくださったスタッフのみなさんにも感謝の意をあらわしたいと思えます。(拍手)